

# 山行報告書

日時	2023年11月23日(木)~25(土)		天候	23日曇り 24日小雪 25日快晴
山名	八ヶ岳(赤岳)、蓼科山			
CL	HIRO	参加者	S行 ヨッシー ひとみ (総勢4名)	
(コース)	<p>11月22日(水)白木原駅19:00 一途中仮眠</p> <p>11月23日(木)一茅野IC一美濃戸口15:38...17:38赤岳鉱泉小屋(小屋泊)</p> <p>11月24日(日)7:30...8:15行者小屋...地蔵尾根...赤岳頂上小屋...赤岳山頂...地蔵尾根...13:50赤岳鉱泉小屋...15:36美濃戸口一清里新栄キャンプ場</p> <p>11月25日一スズラン峠登山口9:55...蓼科山山頂...16:51登山口一諏訪IC一途中仮眠</p> <p>11月26日一19:30白木原駅</p>			
HIRO 感想 & 登山メモ	<p>1.今年は例年より降雪が早く、八ヶ岳には、この時期でも登山口近くまで降雪があった。山頂へ続く稜線では50cm程度の積雪があった。また、天気予報通り年末並みの寒波で、典型的な西高東低の冬型の気圧配置となった。そのため、八ヶ岳山域は風が強いものの降雪は少なかった。</p> <p>2.中央自動車道がリニューアル工事で長い区間が一車線に規制されていたため大渋滞で、通常よりも3時間ほどかかったために登山口到着が大幅に遅れてしまった。その影響で、小屋に到着するまで1時間のヘッデン行動になった。</p> <p>3.赤岳鉱泉から地蔵尾根までは風も弱く快適な登山だったが、稜線に出ると爆風で何かに掴まっていなくて飛ばされそうになるほどだった。それでも降雪は少量で視界が確保できていたので、山頂を目指すことにした。他の登山者は諦めて停滞や下山を選択したようで、地蔵尾根と稜線では誰にも会わなかった。山頂の気温はマイナス10℃前後だった。</p> <p>4.25日の蓼科山は快晴に恵まれ、前日からの冷え込みで霧氷が発達して最高の景色となっていた。12本アイゼンを使用したけど、チェーンアイゼンでも充分だと思われた。</p> <p>5.メンバー全員が冬山の経験者で、装備も万全で小屋泊まりということもあり、軽快な山行になった。移動中も楽しい会話が尽きず、またひとつ楽しい思い出ができた。このような経験ができたことをメンバー全員に感謝している。</p>			
S行 感想	<p>今年、西高東低の典型的な冬型気圧配置が、11月半ばから現れて各地に積雪がある中、八ヶ岳連峰の主峰 赤岳~阿弥陀岳縦走さらに翌日蓼科山ピストンの計画で行って参りました。</p> <p>初日は前線通過に伴う強風が予想されていたので、無理をせず行こうとCL中心に話し合い出発しましたが、案の定、赤岳鉱泉から地蔵尾根に上がる途中から風が吹きまくり、尾根に出たら予想通り15m~20m近い風と闘いながらの登山となりました。CLとこれ以上の風になったら撤退しようと話しながら、何とかまずは赤岳山頂にはたどり着きました。しかし、途中耐風姿勢をとってもふらつかされるほどの風に苦戦したため、それ以上の無理はせず阿弥陀岳への縦走はあきらめ下山しました。</p> <p>二日目は転戦して蓼科山のピストンです。この日は朝から快晴で前日とは打って変わり、風もあまりなく快適な登山となりました。頂上からは南・中央アルプスはもちろん、御嶽山、乗鞍岳、北アルプスまで見渡せ、また前日決死の覚悟で登った赤岳や八ヶ岳連峰を隔々まで見渡せ最高の締めくりとなりました。</p> <p>初日は典型的な少々荒れた冬山、二日目は澄んだ空気の快晴の下の登山と変化にとんだ大変楽しい登山となりました。赤岳は地蔵尾根からは冬山としては初級とのことですが、天候次第では大変厳しく、かつ岩と雪のミックスの状態です。天候・状況判断が試される冬山の魅力が詰まったものでした。これからは事故に気を付けながら、出来る範囲の挑戦を楽しみたいと思います。</p> <p>計画立案いただいたCLはじめ、パーティーのメンバーとの道中の車内や打ち上げも大変楽しく感謝申し上げます。有難うございました。</p>			

ひとみ 感想	<p>今年初めての雪山は、白銀の八ヶ岳と、ブルーホワイトに輝く蓼科山でした。八ヶ岳の赤岳鉱泉小屋は綺麗で雰囲気があり、夕飯のステーキにはビックリ！赤岳鉱泉クラフトビールが飲みわたり、少し飲み過ぎてしまった。☺翌日の赤岳は残念ながらガスで真っ白、雪とアイスバーン状態の激坂、そして山頂は強風。女性陣は安全第一で撤退しましたが、リーダー達は無事登頂されました。</p> <p>蓼科山は快晴に恵まれ、青空に真っ白に輝く樹氷がキラキラしてブルーホワイトの美しい世界でした。岩場が広がる山頂からは真っ白なアルプスの山々が、パノラマに見渡せて、とても素晴らしかった！ここに来ないと見れない絶景！何かとフォローして下さったHIROリーダー、皆様には感謝しています。有難うございました！</p>
よっしー 感想	<p>雪山用の登山靴とアイゼンを買ったのは今から8年前。その頃からいつかは行ってみたいと思っていた雪の八ヶ岳に行くことができた。</p> <p>今まで雪山の経験は伯耆大山までしかなく、持っているバラクラバとゴーグルが必要になるような悪天候の経験はない。</p> <p>今回、今年一番の寒気で爆風の予報、わたしの経験値で登ることは可能なのだろうか？と不安もあったけれど、何度もあるチャンスではないと思い参加した。</p> <p>初日は道中渋滞にあい美濃戸口への到着が遅れ、赤岳鉱泉まで今期初のアイゼンとヘッデンでの歩行で少し緊張した。</p> <p>翌日の赤岳鉱泉から行者小屋までは風もなく、ちょうど歩きやすい雪の量で楽しいスノートレッキング。</p> <p>地蔵の頭までの急登では雪の付き方が中途半端で、岩肌が見え隠れするくらいだったが、凍っているのは階段くらいでそんなに怖くなかった。</p> <p>尾根に近づくとともに風が強くなったので無理せず撤退、雪遊びを楽しみながら下山した。冬の山小屋泊の状況がわからず、結果的に衣類や重い充電機、チェーンアイゼンなど不要な物があった事を反省。</p> <p>必要な物の選択と一つ一つの軽量化が相変わらずの課題である。(赤岳鉱泉は冬でも快適な山小屋だった)</p> <p>最終日は朝から風もなくドピーカン、前日登れなかった赤岳を「今日なら登れたかも」と恨めしく眺めながら蓼科山へ。</p> <p>蓼科山は赤岳よりも雪が少なく、半分くらいはアイゼン不要であったが、山頂付近では紺碧の空に真白な樹氷が見られ感激だった。</p> <p>山頂付近はごつごつとした大きな岩でアイゼンを付けての通過に緊張した。</p> <p>蓼科小屋が見えてくるとなだらかな稜線となったが、まだ雪が柔らかく踏み抜くと落とし穴にはまってしまい油断禁物。</p> <p>山頂では風が強かったが、視界360度の名だたる山の雪景色を堪能することができ、いつまでも眺めていられた。</p> <p>次はあの山へ、その次は…と夢が膨らむ山行となった。</p> <p>いつもこのような素敵な山行を企画し実現して下さるCLとSLには感謝しかありません。</p> <p>いろいろとご指導いただきありがとうございました。</p> <p>また次回も参加できるように体力面や環境面を整えます。</p>
費用概算	<p>(交通費・30000円/人)</p> <p>(その他) (宿泊費・小屋泊12000円/人・バンガロー1400円/人)</p>

赤岳山頂



赤岳鉱泉



麓から八ヶ岳を望む



麓から北八ヶ岳を望む





蓼科山の霧



麓から赤岳を望む



蓼科山 山頂より八ヶ岳を望む



蓼科山 山頂